

試 験 研 究 成 果		畜 産	1 5	豚	育 種
新技術・情報名	福岡県で達成した系統豚利用による銘柄豚生産方式			分 類	①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

福岡県で系統造成中の大ヨークシャー種を利用した県産銘柄豚の生産方式は、図1のとおりである。この方式に基づいて農家における現場検定を実施したところ、この系統間3元交雑による肉豚生産は、県産銘柄豚の生産方式として適当であることが明らかとなった。

- (1) 母豚の繁殖性については、一般的に成績が低いと考えられる1～2産次から、全国優良農家の4～6産次と同等の好成績を挙げることができる。
- (2) 生産される3元雑種肉豚は、枝肉上物率が約69%で、全国優良農家の成績に比べ約15%良好である。
- (3) ランドレース種雄系統の相性試験で、当場の成績では発育性においてエドが優れており枝肉上物率は各系統とも良好であった。今回の現場検定の生産子数と枝肉上物率の成績において系統間に差はなく各系統とも相性は良い。

2) 技術・情報の適用効果

第1図の生産方式による系統間組合せで交雑肉豚生産を行うことにより、高品質豚肉の生産が可能となる。

3) 適用範囲

県下全域の養豚農家。

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

系統豚の利用は、福岡県系統豚利用推進要領に基づいて行う。

2. 具体的データ

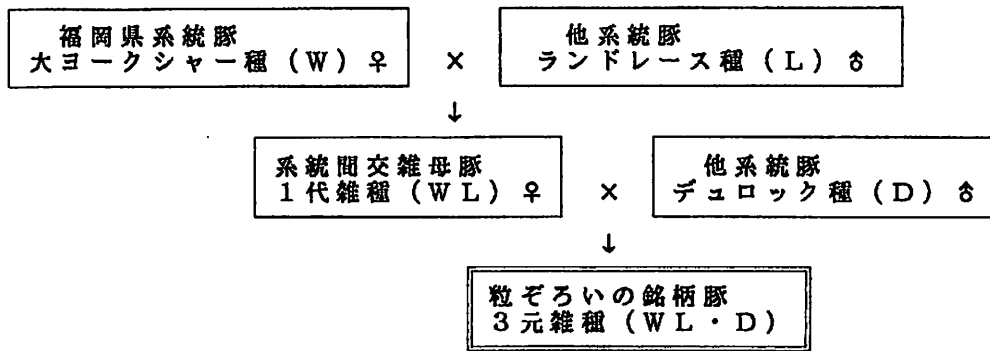


図1 県産銘柄豚の生産方式

表1 大ヨークシャー種世代別検定成績 (昭和62年～平成3年)

交配 組合せ	検定 農家数	母豚 頭数	1腹平均		平均 育成率	枝肉 上物率
			生産子数	離乳頭数		
(W1×L)×D	8戸	96頭	10.3頭	9.1頭	89.8%	69.5%
(W2×L)×D	8	113	9.7	8.3	86.8	64.3
(W3×L)×D	6	108	10.0	8.7	87.5	68.7
一般豚			10.0	9.1	90.6	53.2

注) ① W_n : 系統第 n 世代
 ② 一般豚: 肉豚生産性向上特別対策事業農家(全国)の平成3年成績
 ③ 産次: 1~2産, ただし一般豚は平均4~6産

表2 ランドレース種系統別検定成績 (平成元年～平成3年)

交配 組合せ	検定 農家数	母豚 頭数	1腹平均		平均 育成率	枝肉 上物率
			生産子数	離乳頭数		
(W3×L7キヨシ)×D	2戸	18頭	9.7頭	8.0頭	83.0%	- %
(W3×Lスト)×D	5	17	10.1	9.2	91.6	69.3
(W3×Lクマト)×D	5	35	9.6	8.6	89.9	66.7
(W3×Lハマユ)×D	5	38	10.4	8.8	85.8	69.7

3. その他特記事項

担当部科室名: 畜産研究所 中小家畜部 養豚研究室

研究担当者名: 大和碩哉, 投野和彦, 佐藤充徳

研究課題名: 大ヨークシャー種系統豚の組合せ検定

期間: 昭和60年～平成4年 予算区分: 経常

既発表論文・資料名等: 平成3年度畜産関係試験成績書

取りまとめ責任者名: 投野和彦